

- 祝 卒業！
- 合格速報会

海外で学ぶということ

英語科 大西 秀人

学生の頃、英語は好きな科目で（得意科目は世界史でしたが）、特に物語文を好んで読んでいました。単語帳はシケタン、熟語はターゲット、文法・語法はネクステージ、解釈はポレポレなどお気に入りの参考書を使い勉強していました。学生時代の勉強はおそらく受験英語と呼ばれるものであり、よく批判される対象になります。一方、海外に行ったからといって自動的に英語が話せるようにはなりません。私たちノンネイティブにとって、言語とは母国で学んだ知識(explicit knowledge)を土台として、英語のシャワーを浴び、膨大な量のアウトプットをすることで初めて身につくもの(implicit knowledge)だと思います。

「英語を通じて興味ある分野を研究したい！」私はいつからかこのように考えるようになりました。もちろん国内でも同じようなプログラムがある大学はあります。しかし、せっかくなら海外で学びたい、外国の風土を全身で感じながら、世界中から集まった学生と一緒に英語教授法を学んでみたい、と思い留学することを決心しました。何となく懂れていたことが現実になるまでにはかなりの時間を要しましたが、着実に準備を進めていきました。結果、大学からオフォアを貰うことができた瞬間は自分の人生の中でも上位に入るほど嬉しかったです。私はイギリスの大学院で、応用言語学を専攻することになります。

入ってからが大変といわれる海外大学です。入学前に通ったプリセッションスクールでは、授業に対応できる力と質的研究論文が書けるようになる必要な知識を与えてくれました。知らないことがたくさんあり、そのまま入学していたら多くの科目でとんでもない評価になっていたなど、肝を冷やしたものです。ちなみに、大学の多くは Turnitin と呼ばれる剽窃（ひょうせつ、英語では plagiarism）発見システムを用いています。これは、学生の提出したレポートにおいて、どこからコピー&ペーストした表現が無いかどうか web 上のすべてのデータと照らし合わせてチェックすることができるツールです。そのため学生たちは、無意識に同じ表現を使っていないかドキドキしたものです。

海外大学あるあるとして、毎週 100 ページ以上の文献を読まないといけないとしばしば言われます。実際、私の通っていた大学もその通りでした。ただ読むだけでは不十分で、事前に提示されるトピックに対して論理的な意見を用意しておかないと、120 分のディスカッションで一言もしゃべれなくなってしまいます。教室では文献を読んだ感想など必要とされません。発言には必ず文献による裏付けや根拠が必要なため、毎週毎週とにかく課題が終わらず、死に物狂いで勉強していました。クラスの学生の多くがネイティブやバイリンガルの人たちで、彼らとはとにかく話すことが得意であり、最初は圧倒されました。しかし人間不思議なもので、だんだん慣れてくると、心に余裕が生まれ、少しずつ発言する機会が増えてきます。彼らの話すスピードや量では敵いませんが、ある程度表現のミスは気にせず、しかし崩れすぎないように、とにかく相手に伝わる話し方を心掛けました。イギリス人の先生に何度もうなずいてもらえたのが自信にもつながりました。

現在はネットで世界中とつながることができますし、日本においても異文化交流は十分可能です。しかし、これ

を読んでいる皆さんには、短期間でも良いので一度は世界へ旅立ってみたいと願っています。そこには想像していなかった発見、まったく話せないなどの挫折、不慣れな土地で困難を乗り越える努力、経験、達成した自分自身への自信、改めて日本という国の便利さに気づくことができるはずです。これが私の海外で学ぶことのおススメです。

○祝 卒業！

国公立大学の後期試験の合格発表が3月23日（土）までにあり、今年度の大学入試も終了しました。76回生の合格状況は以下の表にまとめた通りです。難関国公立大学、難関私立大学の現役合格者数は昨年度を上回り、大健闘しました。また、既卒生も東京大学1名、東京工業大学3名、早稲田大学10名、東京理科大学11名など、合格の報告が届いています。合格状況の最終的な結果は、次号の進路通信などでお知らせします。

大学合格状況（現役 76 回生） ※カッコ内は昨年度の同時期の合格状況（75 回生）

| 国公立大学 | 人数 | 私立大学 | 人数 |
|-------------|---------|----------------------------------------|--------------|
| 東京大 | 2 (1) | 早慶上理 早稲田・慶応義塾 上智・東京理科 | 204 (159) |
| 一橋大 | 5 (5) | G M A R C H 学習院・明治・青山学院 立教・中央・法政 | 451 (403) |
| 東工大 | 3 (3) | 成蹊・成城・武蔵・明治学院 | 58 (68) |
| 京都大 | 1 (1) | | |
| 国公立大学医学部医学科 | 1 (1) | | |
| その他 国公立大学 | 73 (75) | | |
| 国公立大学 合計 | 85 (86) | | |

○合格速報会

3月19日（火）合格速報会が行われました。1・2年生に向けて、3年生から志望校合格までの学習、学校生活などを話してもらいました。以下はその概要です。いずれも、皆さんが志望している難関大学の現役合格者のお話です。今後の学校生活に是非活かしましょう。また、新年度に配布される『進路のしおり』にも、多くの先輩たちの経験談が載る予定です。そちらも参考にしてください。

★2年生向け.. 受験勉強全般・各科目の勉強方法で重要なことが中心でした。

- ・ 受験勉強のスタート時期が重要（2年次の3学期からが多かった）。
- ・ 基礎固めは早期に終わることが重要（できれば2年生のうちに。遅くても3年1学期中に）。
- ・ 受験勉強のスタイルを早く確立することが重要（いつ集中して学習するか(時間)、どこで集中して学習するか(場所)など。多くは学校の自習室だった）。
- ・ ポジティブな思考が重要（例えば、試験会場で自分が1番実力があると思うようにするなど）。
- ・ 部活動、文化祭はやり切ることが重要（やり切ると勉強にうまく切り替えられるし、息抜きにもなる。中途半端に終わって後悔があると勉強に切り替えられないなど）。
- ・ 国公立大学の2次試験対策は学校の先生の添削（先生とのやりとり）が重要。
- ・ 学校の授業をペースメーカーにすることが重要。

★1年生向け..2年次に大切なことが中心でした。

- ・勉強時間を増やすことが大切。3年次に急に増やすことは難しい（例えば1日1時間勉強を他の人より多くすると、年間で360時間の差が生まれる。これは受験勉強をスタートした時にアドバンテージになるなど）。
- ・英語・数学・国語の基礎固めは2年のうちに終えることが大切。
- ・全科目満遍なく学習することが大切（2年生の途中で志望校を変更しようとした時に〇〇（科目名）ができないからあきらめた..はもったいないなど）。
- ・1年次の反省を2年で繰り返さないことが大切。
- ・授業、課題はしっかり取り組むことが大切（受験勉強を始めた時に、1・2年生で勉強したことが役立っていることが身にしみて分かるなど）。
- ・勉強と部活動の両立の極意は、勉強の時は勉強だけに集中、部活動の時は部活動だけに集中することが大切（そうすると切り替えがよくできるなど）。
- ・定期テストが大切。
- ・模試は実施後の見直しが大切（弱点克服になるなど）。
- ・国公立大学は、共通テストは5教科7科目の勉強が必要で負担が大きい。しかし、目指すことは大切（その理由は、弱点科目があっても他科目で補うことができる。理系志望なら文系科目、文系志望なら理系科目の勉強がリフレッシュになる。GMARCHの共通テスト利用受験は、共通テストの得点率が70%後半でも合格できる。国公立大学医学部医学科受験は、2次試験で教養..地歴科目の内容..を問われるなど）。

先輩からの言葉

目標を持ち続けること

日本電気株式会社 プロフェッショナル

常岡 泰治(35回生)

私が新宿高校に入学した1980年初めは、イエローマジックオーケストラを始めとしたテクノポップブーム真っ盛りの時代で、私もご多分に漏れず中学生の時から、当校の卒業生である坂本龍一さんの大ファンでした。ただ当時の都立高校の入学方式は学区制で、自分で進学したい高校を決めることができませんでした。新宿高校は駒場高校と同じ学区であったため、試験に合格しても新宿高校に行けるかわからず、合格発表の際、新宿高校に入学できることがわかり、大喜びしたことを覚えています。

高校一年生の文化祭では、当時のブームを反映してイエローマジックオーケストラのコピーバンド等その時代を反映した催し物もあり、私はクラスの出し物として、クラスメートと協力して、イエローマジックオーケストラの“ライディーン”を合奏したりしていました。

こんな高校生活を送っていたので、当時の将来の目標は、音楽関係の仕事につくことでした。もちろんミュージシャンは無理だと思っていましたが、例えば音響関係の仕事につきたいと思い、実際音響工学の研究施設が充実している大学を選んで進学しました。

ところが大学在学中の1985年、たまたまテレビでハレー彗星探査計画の特集番組を見ました。1986年に76年ぶりに地球に最接近するハレー彗星を、日米ソ欧共同で観測しようという壮大な国際宇宙探査計画です。これを逃すと次回は2062年、自分にとって一生に一度のイベントであること、当時はまだ東西冷戦時代であったにも関わらず、その垣根を超えての国際共同プロジェクトであることにいたく感銘を受けて、自分もこのような仕事をやってみたいと強く思うようになりました。

そんなことを考え始めていた矢先、これもたまたまですが、大学の掲示板に当時の文部省宇宙科学研究所（現 JAXA 宇宙科学研究所、以降宇宙研）から受託学生の募集が来ているのを見つけて、すぐにそれに飛びつき大学4年生から宇宙研で勉強をする機会を得ることができました。宇宙研は、ハレー探査計画の日本代表であり、当時の自分にとっては夢のような環境で勉強することができ、結局大学4年生だけでは満足できず、大学や宇宙研に無理を言って、大学院でも宇宙研で学ばせて頂ける機会を頂きました。結局学生生活6年間のうち半分の3年間は宇宙研という宇宙開発の最前線で過ごすことができました。

こうなると当然仕事も宇宙開発の分野でと考えるようになり、学生時代の経験を生かして、宇宙開発の仕事に就くことができ、現在も微力ながら日本の宇宙開発の一端を担うことができています。

従って、今の仕事は、高校生の時に描いていたものとかかなり変わってしまいましたが、だからといって後悔はしていません。目標というのは、その時の自分の置かれている環境、周りからの影響で変わりうるものだと思いますし、変わっても良いのだと思います。大切なのは、いつも何か目標をもって、その目標を達成するためにどうアプローチしていくかを、色々と自分なりに悩み、考えることではないかと思います。逆に、仮に本意ではない環境に身を置かざるを得ない状況であっても、その中で何か目標を見つけることができれば、違った展開を自分で作り出していけるのではないかと思います。

目標は常に持っていたほうが良いと思いますし、持ち続けるのが良いと思います。ただ、一度決めた目標は絶対ではないと思いますので、必要に応じて見直していけることも大切なことだと思います。

（同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。）

★今後の予定（進路関係）

4月30日（火） スタディサポート（ベネッセ・1年生）、第1回全統記述模試（河合塾・3年生）

5月12日（土） クラブ合同保護者会（卒業生の講演あり）

※3月に実施した、学びみらい PASS（河合塾・1年生）、全統共通テスト高2模試（河合塾・2年生）は、4月以降、新クラスで返却予定です。